

**残りの者**  
**シャーアル**

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(120号)  
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号  
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

**振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一**  
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



## 信仰: 主の憐れみでこんな者までも

- この冬は、思いも寄らぬ大雪と低温で、各地に様々な被害がもたらされました。皆さまの所では如何だったでしょうか。神の支えを祈ります。
- 2008年に予想しななかった経過で開所された私たちの「石巻祈りの家」も、神の憐れみと皆さんの支援によって、この2月でその活動も10年を過ぎました。
- 特に、2011年の東日本大震災の際には国内外の皆さんの援助によって地域教会としてこの地の被災者に寄り添うことが出来ました。この10年間を振り返るときに、「こんな者が」、「こんな小さい群が」主の憐れみの中で守られ、生かされ、用いられてきたことに心から感謝をせざるを得ません
- 私たち人間はいただいた恵みを簡単に忘れ、次第に過小評価する弱さがあります。そして、自分を過大評価し、他人より少しでも抜きん出ることを無意識の中でも行ってしまいます。その誘惑はあらゆる組織にあり、教会もその例外ではありません。
- 初代教会から、愛の実践と訓練と神の福音の発信場所として設立されたのが教会です。そして、本来「仕える」ために召された人々からなる職階が、一旦それが出来上がると、その組織を守るためと言いながら、その組織の中で人間的な栄誉を求めたり、教会間での比較が生まれる弱さがあります。その弱さをチェックすることを、今神は求めています。
- 私たちクリスチャン一人一人は、「どのような自分が、神の一方的な憐れみと愛によって救い出されたのであったのか」を再確認する必要があります。その真剣な確認は「こんな私が」に導かれ、そのいただいた恵みの大きさに圧倒され感謝と共に身を低くされるはずで、それは私たちの日常生活に現実、かつ必然的に現れる事になるでしょう。
- ハーベストタイムの中川健一師は、「黙示録」のエペソ教会の講解の中で、その教会がニコライ派の人々の行いを憎んでいることをほめ、そのグループは民から霊的自由を奪う聖職者の階級制の先駆けかと解説し、それは「神支配の教会」を「人間の支配の教会」にしてしまう危険性を指摘しています。
- 聖書辞典も、ニコライ派を「信仰と行いにおいて自由奔放で、無律法主義的な集団であったようだ」と説明しています。
- 教会はいつの時代も「神の求める聖さ」を守るためにそれとの戦いの連続でした。私たちも、現状に満足するときこの誘惑に陥ります。
- エペソの教会へは「初めの愛から離れてしまった」と、教会に悔い改めて、「どこから落ちたかを思い起こし、はじめの行いに戻りなさい(2/5)」と勧告しています。
- 謙遜は、どんな自分が神に救われ、愛されているかをいつも思い起こすことなく、見かけの自分の繕いで身に付けることができるものではありません。
- 11年目の歩みを始めるにあたり、「こんな者が」を再確認して神の誠実に応える一歩を踏み出したいと願っています。続けて祈りの支えをお願いいたします。

### 先月の多くの恵みから

① 本年度の「宮城三陸3.11東日本追悼記念会」は、3/10(土)に南三陸町ホテル観洋でメイン集会在、翌3/11午後から、気仙沼市の気仙沼FBBC、登米市のイエス福音教団宮城教会、石巻市の「The Rock」で、それぞれに小坂 忠/Migiwa/森 祐理/上原玲子さんの豪華アーティストが別れて、追悼記念音楽会が開かれます。各集会在被災者たちの慰めになるようお祈り下さい。

- ② 2/2に石巻クリスチャンセンター(ICC)の理事会のために石巻にお出でになったウィクリフの高田正博宣教師が訪問下さり、ICCの今後の活動とビジョンための意見を聞かれ、祈りの時を持たせていただきました。
- ③ 2/2にウィクリフの阿部紀美子宣教師が、活動の途中で棚田から落下という大きな事故に遭われました。東京に搬送されて診断の結果、頸椎部分をギブスで治療することになりました。完全な治療のためにお祈り下さい。
- ④ 2018年度の年次総会を4/22に開催の予定です。この1年に頂いた恵みをしっかり確認して11年目の一歩を踏みだせるようにお祈りをお願いします。
- ⑤ 礼拝メッセージとして用いさせていただいたFEBC放送での井幡清志師のマルコの福音書が終わり、引き続きマタイの福音書の講解説教「いつも、そしてともに」を通して神の恵みを教えていただきます。
- ⑥ 3/11は、継続して支援を下さっているHHPの竹下 力師と静姉が礼拝の奉仕をして下さることになっています。
- ⑦ 2/9に、16年前の2/11に不慮の事故で御主人が天に召された古川の皓子姉を訪問し、兄の真っ直ぐな信仰姿勢を思い起こし、祈りの時を持つことが出来ました。
- ⑧ 2月も、教会活動や支援活動を多くの兄弟より献金や献品で支えていただき感謝します。

### ■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 自宅で療養中の大平姉とガンと闘っている求道中の今野かつ子さん、千葉信一兄の奥様の3/19の肺の手術のために。② 市内の新しく開拓を始めた教会に、教会を支える地元の家族が救われるようにお祈り下さい。また、3/10-11の追悼記念会の祝福のために。

群の定期集会	
・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもに)	要望に応じて

## 信仰を詠う

### 3月 二月のお恵み

寒風にバイブル抱え姉妹訪う  
魂揺すられし二月は青く  
教会へむかう安けさ 如月の  
風割ってくぐる温き席ありて  
いてみち  
凍道をそろりそろっそろ歩を運ぶ  
フェブラリーの風に立てるお恵み



**阿部 八重子**  
暦の上では立春、でも冷気は厳しい、特に今年は雪が多い。それでも2月は私にとって宝のひとつ、大きな聖書を携え言葉を選んで下さった姉妹の存在、31年になります。

# 1月末から2月末までに来訪された先生・兄弟/「祈りの家」の地区教会活動との関わり



2/2 ICC理事の高田正博師訪問 月第1週火曜日の聖書を讀む会 阿部博さんが室内灯をLEDに 今月の「ほっと・Time」はオペラ 石巻もこの冬はこの景色に



2/23 入院中の姉妹を潘谷国保病院に見舞い 2/9御主人を事故で亡くされた姉を 2/21 H姉教会バザーのために献品 川上師より東北の殉教地紹介誌を H元100号の文芸誌を



毎週土曜日朝8時からの「馬っ山早天祈禱会」は厳寒のために「石巻オアシス教会」・「石巻渡波教会」で実施継続し、市民の救いと市内の各教会の働きのために心を合わせ祈る

## アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

### 小さな者がする、小さなこと

単立・聖望キリスト教会伝道師

Holy Hope Project 代表伝道者 竹下 力

私たち聖望キリスト教会は、祈りの家と同様で、代表信徒の大竹堅固兄弟が自宅を開放して始まった「家の教会」「信徒の教会」です。2010年に会堂は与えられましたが、今も主任牧師はおられません。私も伝道師として活動しつつ、一信徒として集っています。震災直後、大竹代表の発案で「うちは単立だから、単立教会を支援しよう。顔と顔とが見える支援を。」と、「単立教会支援プロジェクト」が始まりました。

とはいえ、これまで東北の単立教会と交流があったわけではありません。まずは情報収集から始め、石巻祈りの家、仙台のシーサイド・パイプ・チャペル（当時単立。現：グレース宣教会・つばめさわ教会）が候補に挙がり、私の妻・静が東北出身だったことから、まずは私たち夫婦で現地を訪ねることとなりました。（静は石巻女子高卒。阿部一兄も同校の教師で、その当時、静の父が牧会していた教会の教会員同士でもありました。これも不思議な導きです。）

いざ被災地を訪れてみると、海沿い一帯、津波に流され、無機質なグレーに染まった光景とその広さに愕然としました。映像で見るのと、この目で見るのとでは全く異なります。この時すでに、震災から約1か月半が経っていましたが、この間も、この状況下で過ごしておられるのかと思うと、いたたまれなくなりました。

「これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」  
マタイの福音書25:40

この「最も小さな者」とは、まず私自身のことなのです。一面に広がる被災地と、被災した方々を前に、何が出来るわけでもない「最も小さな者」でしかありえませんでした。しかしイエス様は、この最も小さな私がする最も小さなことにも目をとめてくださる…。今、悲しみや困難にある方々のために、たとえ小さなことでも、自分たちにできることをさせていたいただきたいと思われました。

市川に戻り、早速、聖望教会で報告。加えて7月には福島第一原発から22kmのところにある南相馬の原町聖書教会にも訪問。以後、石巻、仙台、南相馬の単立3教会を順番に訪れ、交流と義援金を手渡しする働きがはじまりました。

活動開始間もなく、横浜のシャローム福音教会や、母教会の静岡その枝キリスト教会（共に単立）も賛同してくださり、その他、個人からも義援金が寄せられました。

静はゴスペルシンガーとして活動しておりますので、早速、被災地でのコンサート依頼も受けました。石巻最初の被災地コンサートは、新館地区。夏も暑い盛り、阿部兄やディーン・ベンソン師らボランティアチームが泥かき作業を行っており、その丁寧な作業ぶりには、本当に頭の下がる思いでした。私たちも手伝うつもりだったのですが、すでに空き地には物置小屋を改造した舞台が用意されており、着くや否やリハーサル。かき氷とともに、野外コンサートが催されました。

当初は静も、被災した方々に何をどう歌えばいいのか、戸惑いがあったようです。しかし自分に与えられた歌で、どうかキリストにある希望を伝えたいと強い思いが与えられ、以来、より積極的に音楽伝道に取り組んでいます。

私も然りです。自分にできることは音響の裏方か、あとは説教です。被災した方々に、どう語りかけていくべきか言葉に悩みつつも、現地の求めに応じて励んでまいりました。

その後も活動の中では、様々な出会いがあり、自らも被災者でありながら支援に励む人たち、傷を受けながらも懸命に生きようとしている人たちを通して、多くのことを学ばされ、実は私たちが与えられてきたようにも感じます。

「小さな群れよ。恐れることはありません。あなたがたの父である神は、喜んであなたがたに御国をお与えになるからです。」

ルカの福音書12:32

私たちはつい大きな群れ、大きな働き、大きな何かに注目、評価しがちです。確かに、大きなことも必要です。しかしイエス様のもとに集まる小さな者たちの小さな群れ、ここも神の国の一部、神の働きが確かにあります。イエス様は、この小さな者、小さな群れをも愛しておられる。震災から7年、支援という形では終了しつつありますが、今後も小さな者としての活動、交流は続けていきたいと願っています。

